

## 南小たば風通信 2018

平成30年6月8日 第6号

## 板書交流・提案授業 よろしくお願ひします！

昨日、突然でしたが檜山教育局に行き、三浦主査から今回の提案授業の指導案や今後の研究の進め方についてお話ししてきました。研究部で練りに練った指導案…だったので、大きな変更もなく「このような形で研究を進めていってください！楽しみにしています！」と力が入ったお言葉をいただきました。

ということで、今日は板書交流です。皆さんよろしくお願ひします。指導案の形式について、南小の今後の研究の進め方を含め、以下のように進めます。まとめてみました。確認してください。

## ○今年度の国語科指導案について

1. 単元名と教材名は違います。両方書きます。また、指導事項（求められる資質・能力）を確認し、言語活動例を設定します。
2. 単元の目標を設定します。指導書を参考に、指導事項を達成できるように設定します。
3. 単元の評価規準は、1単元1領域で設定する方がよいと思います。今回は、読む単元なので「国語への興味・関心・態度」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」で評価します。（現行指導要領で評価規準を考えます。）
4. 児童の実態は、①CRTの結果、②研究部のアンケート、③単元を意識させたい言語活動を入れて書きます。
5. 研究との関わりは、どの領域の力を育てるのかを明確にするような内容を書きます。
6. 単元を意識させたい言語活動を書きます。国語では、単元を貫いて指導する言語活動を意識させながらの指導が大切です。
7. 単元の指導計画は、主体的・対話的で深い学びの位置付けを計画にします。ここは、今年度の研究での「つけたい力を明確に」の大切なところです。ピクトグラム（裏面にあります）を使いながらはっきりさせましょう。  
また、1単位時間のめあてを入れることにしました。これは、三浦主査が「ぜひ入れて進めてほしい」と話しておられました。これがあると、先生方の指導も明確になり、単元を意識した授業となるそうです。頑張りましょう！
8. 本時案は、「つかむ」「深める」「まとめる」の3段階としました。留意点の欄に「仮説とのかかわり」、「身につけさせたい力」を入れることにします。

三浦主査から、「昨年までの道徳の研究を見ているので、国語に変わっても大丈夫。若い先生方もベテランの先生方も国語の指導の力をしっかりつけてほしい。そして、管内の学校に国語の指導方法を見せてあげてほしい。頑張て！」とのお言葉をいただけてきました。（山本）  
文字ばかりですみません…。